



天 界 新 知 識

遊星形星霧のスペクトル中に新線

米國リク天文臺の90厘米屈折機に75耗のスペクトル・カメラを附して R. H. Stoy 氏は目下或る遊星形星霧の中の新スペクトル線を研究してゐるが、今まで NGC 7027, IC 4997, NGC 6572等の星霧の研究で得た結果は下の通り〔ASP 274〕

新線(波長)	摘	要
(7009) A	6435 A と同種か?	
(6795) ??	6102 A の伴線, 未発見.	
6730		
6717		
6435 !!	{ NGC 7027 中に最著し; Bowen 氏の豫言せる 6432 ± 200 A に近し; 7009 A と同種か? }	
6240 ?		
6234 ?		
6205 ?		
6180 ?		
6102 !	Bowen 氏豫言せる 6101.1 A か? 然らば 6795 A に伴線あるべし.	
6086 !	Ca の禁止線; 5309 A に伴線あらん.	
5805 !	帯; NGC 6572 の小分散寫眞に著し.	
5775 ?		
5720 !	ボンヤリ; Bowen 豫言の二線 5721.9 A 及 5732.0 と同じか?	
5679 ?		
5577		
5537 !	{ NGC 7027 よりも NGC 6572 に強し; Cl の禁止線ならば, 5517 に 伴線あらん.	
(5517)	5537 A の伴線, 未発見.	
(5309)	{ 6086 A の伴線, 未確認; Campbell 氏が NGC 7027 中に眼視發見せる 5311 A と同じか? }	
(4738)	{ 6435 A の極光線? Wright 發見の 4740.2 A と同じ? NGC 7027 等 にあり.	
(4711)	NGC 7009, NGC 7662 等にあり.	
4713	He I ならん.	

プラスケト老の退陰

現代のカナダに於いて最も盛名ある J. S. Plaskett 博士は、創立以來の臺長として全天恒星のスペクトルに研究に大成功を収めたウィクトリヤ天文臺より來1935年七月

末日限り退陰することとなり、今年二月より約半ヶ年の慰勞休暇を得て、パナマ經由で歐洲に遊び、其の息 H. H. Plaskett 氏が臺長をしてゐる英國オクスフォード大學に於いて「ハレイ紀念講演」をなし、七月にはパリ市で開かれる國際天文同盟の總會に出席する豫定である。又、同博士は八月に退陰後はワイトリヤ近郊の Esquimalt 町に餘生を楽しむ由。〔ASP. 274〕

長命の太陽黒點より得たる太陽自轉速度

英國グリニチ天文臺の H. W. Newton 氏が1924—1933年間に於ける長命の太陽黒點の研究から太陽自轉速度の一般式を算出した。其の結果を過去数十年間の同様なものと比較すると下表の通り〔MN 95,60〕

年代	年期	黒點數	毎日の角速度(%)
I	1878—1888	89個	$14.936 - 2.95 \sin^2 \phi$
II	1889—1899	122	$14.93 - 3.90$ „
III	1900—1913	99	$14.939 - 2.98$ „
IV	1914—1923	139	$14.939 - 2.96$ „
V	1924—1933	130	$13.937 - 3.96$ „

一般にスペクトル觀測によると、頗る不一致のものであるが、黒點觀察よりの結果がこんなによく揃ふのは驚くべきである。

5 米の大反射鏡の進況

數年來、アメリカのカリフォニヤ工學院で計畫され、一部製作に取りかゝられてゐる所謂「二百吋」の大反射望遠鏡は、其の鏡面を、ニウヨーク州のコニング市にある Corning Glass Works 會社で特製の borosilicate ガラスにより製作することになり、可なり長い期間の準備や諸種の試験工作の後、愈々昨1934年の三月に、鑄型へガラスを鑄入したのであるが、不幸にして其の時は鑄型の一部が破れて、不成功に終つた。そこで又々工事を新たにし、鑄型を作り直し、去る十二月の初め、再び此の大鏡のガラス材の鑄造を敢行したところ、こんどは首尾よく成功したといふことが、十二月4日のニウヨーク・タイムス紙に載つてゐる。此の鏡は全部の重量が約20トンであるが、今後、10ヶ月を費して冷却させ、それから、ガラス材そのものの綿密な検査をするのであるといふ。そして此の検査に合格したならば、いよいよ荒磨りや、仕上げ磨り、みがき上げ等の光學的工作に移るのである。従つて、今後總ての仕事が都合良く運ぶと假定しても、此の鏡が望遠鏡に裝置されて、天體の撮影や研究に用ゐられるのは、1940年又は其れ以後であらう。

ちなみに、此の世界一望遠鏡は、竣工の上は南カリフォニヤ州のパロマ山 Mt. Palomar の上に据えられることが内定した由。此の山は San Diego 市より45哩東北方にあつて、頂上は平坦であり、毎夜北極星の像を長く検査した結果、大望遠鏡の据え付けに最適地として決定されたものである。〔Nat. 3394〕